

1/18 金 晴

の正月始まった国連総会は、ロンドンのウクライナ侵略が続々下で軍縮の議論が行われました。多くの国から「核兵器使用への強い懸念」として、「核廃絶へ向むく行動をとる」を強調する声明が表明されました。核兵器禁止条約の発効から来年一月で2年です。世界は核廃絶への歩みをさらに加速せねばなりません。

反核平和が世界の本流

「守らなければ、いつ翻弄するのだ。チャバ・コロシ国連総会議長（ハンガリー）は軍縮を建議する第一委員会で訴えました。ロンドンは、NPT第8条の核軍縮義務が「半世紀をわたりて果たされた。米国などが核戦力を増強したり返し、米国などが核戦力を増強したり返し、「今行動しなければ、世界は核廃絶への歩みをさらに加速せねばなりません。

主張

国連総会・軍縮議論

しれない」（ガーナ）など過機感に満ちた発言が相次みました。

第一委員会では、8月の核不拡散条約（NPT）再検討会議で、核軍縮の行動を始めた最終文書を採択できなかったりして、核軍縮議論が集まってしまった。自憲に至りなかつたらしいをめぐり、反対した

とは核兵器を使用して「大爆破壊と人々の死」想像を超える苦痛をもたらす問題がある」という非難、「核兵器競争を観的に逆転させること」も発言されました。

核兵器禁止条約も大きな力を発揮しつつあります。多数の国が決議案に反対したオーストリアは、野党議院や「禁止条約への参加を公約に掲げた労働党が政権につけた下で棄権に転じました。棄権のペイズは条約不参加の立場を再検討するとしています。

核兵器廃絶の行動求める世界

禁止条約を軸に、

ロシアだけでなく核軍縮を怠ってきた全ての核保有国の責任を追及する声も続出しました。」ヨーロッパ議長（ハンガリー）は軍縮を建議する第一委員会で訴えました。ロ

ンの「一チーン政権が核威嚇を繰り返し、米国などが核戦力を増強したり返し、「今行動しなければ、世界は核廃絶への歩みをさらに加速せねばなりません。

第一回締約国会議の成功を歓迎しました。締約国会議後も、新たに4カ国が批准し、条約参加は88カ国となりました。現在も4カ国増えています。締約は「強いて反対する米英仏は賛成する一方、中ロは反対し、100カ国に減りました。米英仏は賛成する一方、中ロは反対し、少なくない非核保有国は棄権しました。「橋渡し」といふか「分断を広めた」と指摘されています。

日本文部省は、禁止条約に参加する必要がある」と強調しました。10月28日の第一委員会では、全員が「核兵器禁止」への国連総会の参加を訴えていますのが実態です。

た決議案が124カ国の賛成を得て採択されました。決議案は、締約国会議と非政府組織が参加した

第一委員会で採択された日本提出の決議案は、核兵器禁止条約に初めて言及したもの、支持も参考も表明していません。核保有国にも「究極的に」廃絶するための「れんなり努力」を求めていました。戦争被爆国は、禁止条約に賛成するが、具体的行動は迫っていません。非核保有国からの批判が上がり、賛成は昨年の152カ国から100カ国に減りました。米英仏は賛成する一方、中ロは反対し、少なくない非核保有国は棄権しました。「橋渡し」といふか「分断を広めた」と指摘されています。日本文部省は、禁止条約に参加する必要がある」と強調しました。それが唯一の戦争被爆国です。

戦争被爆国は、禁止条約に参

加です。